

第3章 防災教育推進フォーラムの分析評価調査

3-1 防災教育推進フォーラム調査結果【大阪会場】

防災教育推進フォーラムにおいて行ったアンケート調査結果を取りまとめる。なお調査は、アンケート用紙への記入形式で行う。調査結果については次ページ参照。

防災教育推進フォーラム【大阪】に対する アンケート調査結果

防災教育推進フォーラム(大阪府)にて「東南海・南海地震の脅威に備える」に関するアンケート調査を行った結果、下記のような結果となりました。

調査件数： 233件(参加数382人、回収率60%)

所属：

(大分類)

個人	81
民間企業	50
教職員	19
学生	9
研究機関	1
地方公共団体	43
国の行政機関	5
消防団	1
水防団	0
自主防災組織	39
その他防災団体	9
無回答・不明	4

学生の専門分野

・看護学(4名)、地理、経済・法律、
 薬害、環境防災、地質学(各1名)

研究機関の専門分野

・地理学 1名

民間企業(小分類)

民間・自営	3
団体(防災関係)	31
団体(防災関係以外)	9
無回答・不明	7

教職員(小分類)

大学	6
高校	5
中学	1
小学	0
専門教科	1
無回答・不明	6

専門教科にのみ記載があるもののみとする。
 教職員の専門教科(学校分類欄にも
 記載あり含め)

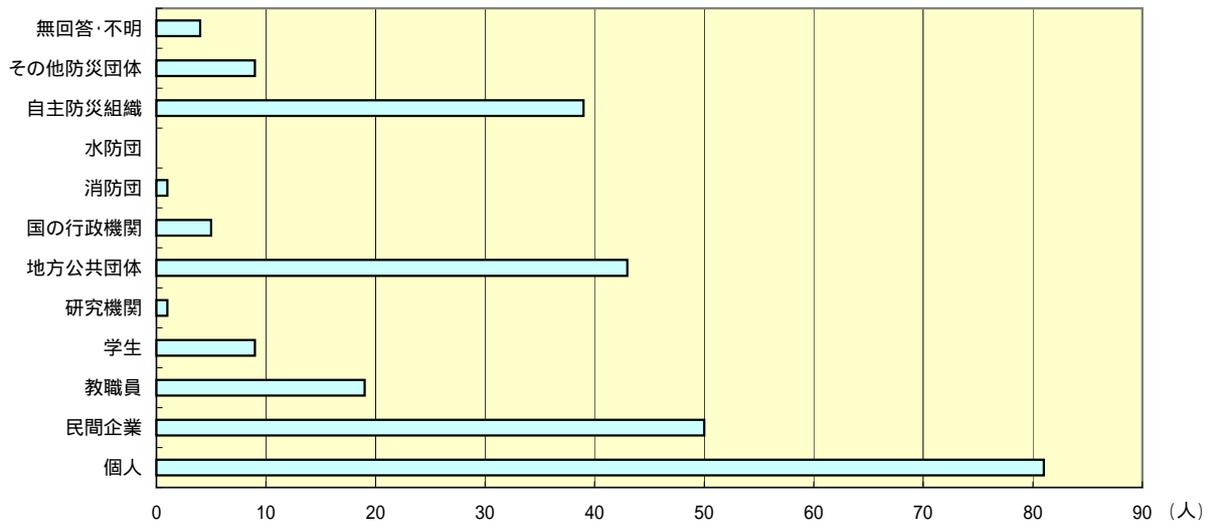
地方公共団体(小分類)

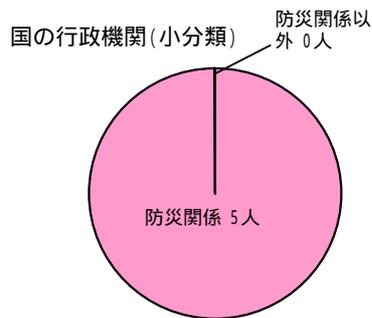
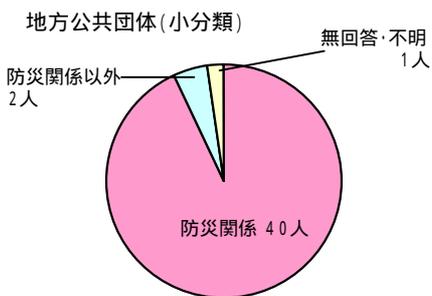
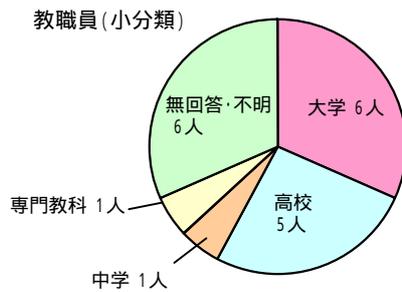
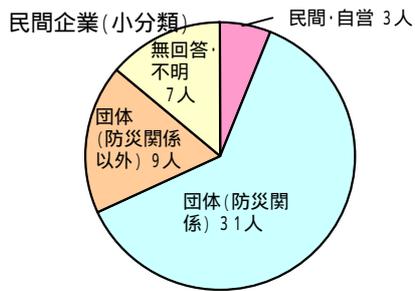
防災関係	40
防災関係以外	2
無回答・不明	1

・工業・土木(2名)、理科、地学、
 行政事務(各1名)

国の行政機関(小分類)

防災関係	5
防災関係以外	0

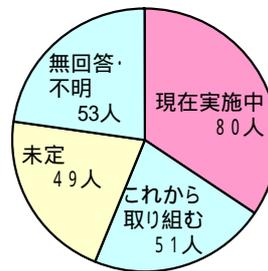




所属の大分類では個人が一番多く、小分類では、民間企業においては団体(防災関係)、教職員では大学が多かった。また、地方公共団体と国の行政機関は両方とも、防災関係の割合の方が多かった。

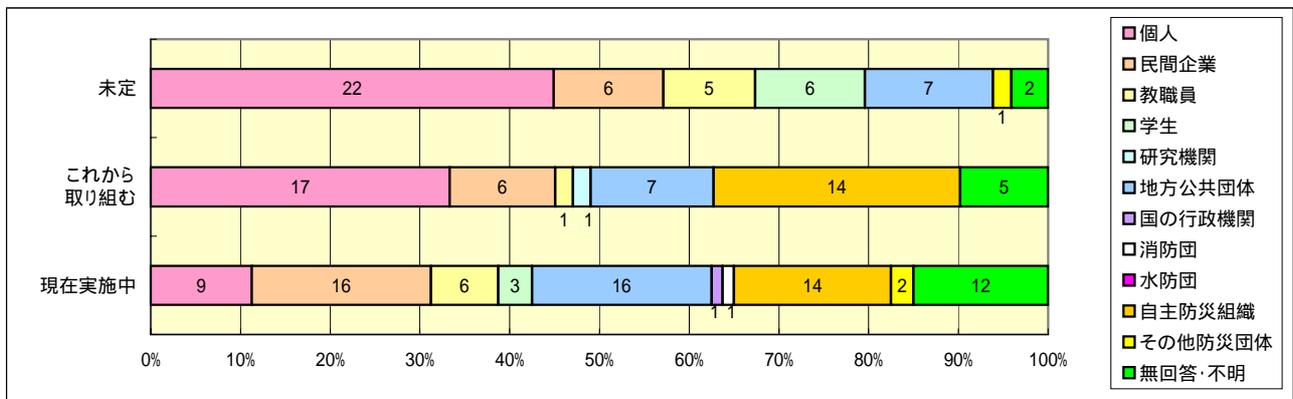
防災教育:

現在実施中	80
これから取り組む	51
未定	49
無回答・不明	53



「現在実施中」が最も多く、続いて「これから取り組む」、次に「未定」の順位であった。

【所属とのクロス集計】

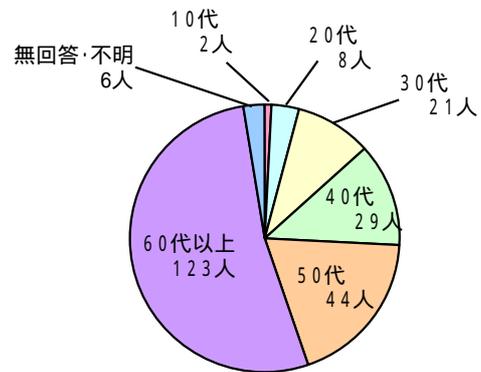


	現在実施中	これから取り組む	未定
個人	9	17	22
民間企業	16	6	6
教職員	6	1	5
学生	3	0	6
研究機関	0	1	0
地方公共団体	16	7	7
国の行政機関	1	0	0
消防団	1	0	0
水防団	0	0	0
自主防災組織	14	14	0
その他防災団体	2	0	1
無回答・不明	12	5	2

「現在実施中」の回答では民間企業、地方公共団体、「これから取り組む」では個人、「未定」では個人の割合が多かった。

年齢：

10代	2
20代	8
30代	21
40代	29
50代	44
60代以上	123
無回答・不明	6

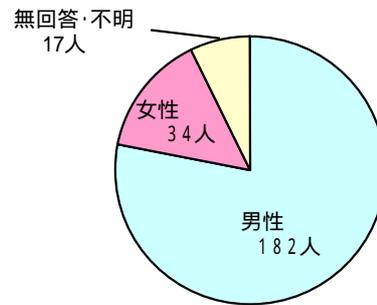


60代以上の人数が圧倒的に多かった。

性別:

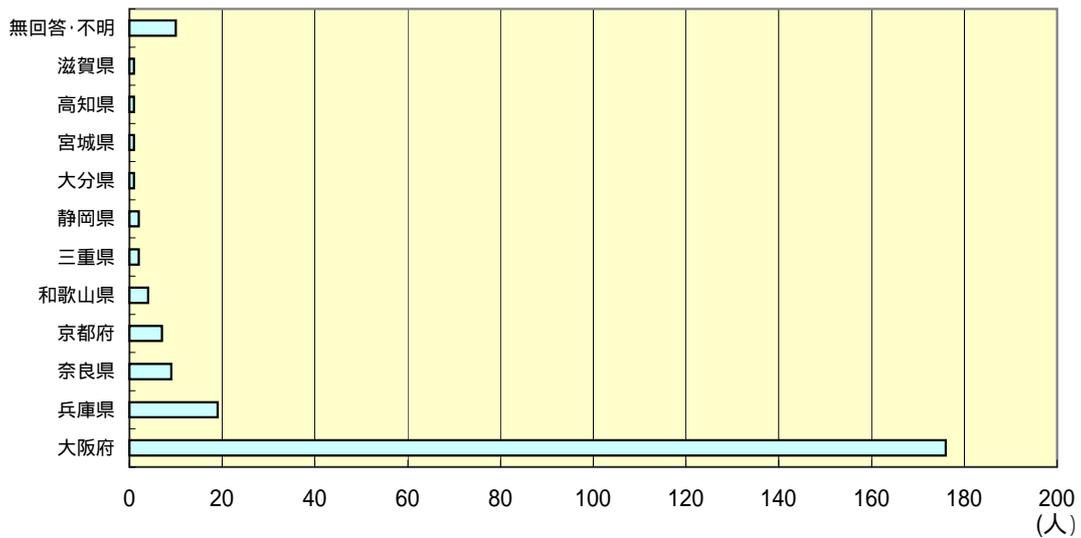
男性	182
女性	34
無回答・不明	17

男性が多かった。



住所:

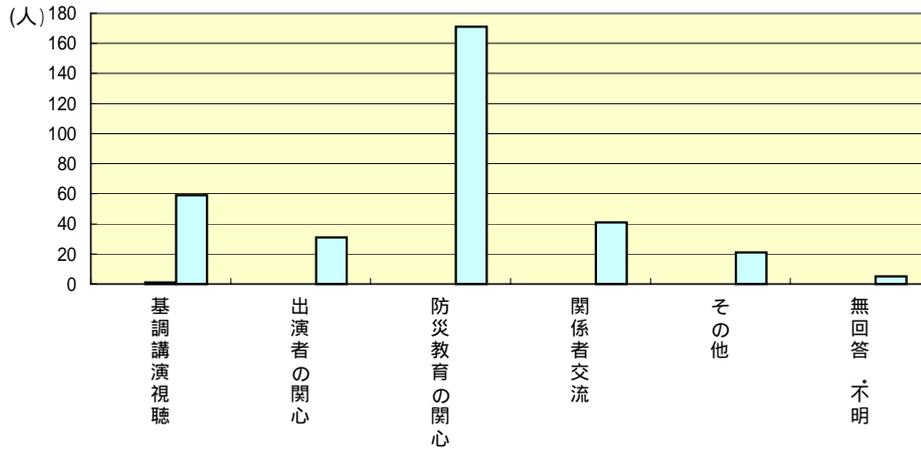
大阪府	176
兵庫県	19
奈良県	9
京都府	7
和歌山県	4
三重県	2
静岡県	2
大分県	1
宮城県	1
高知県	1
滋賀県	1
無回答・不明	10



一番多かったのは「大阪府」で次に「兵庫県」が多かった。

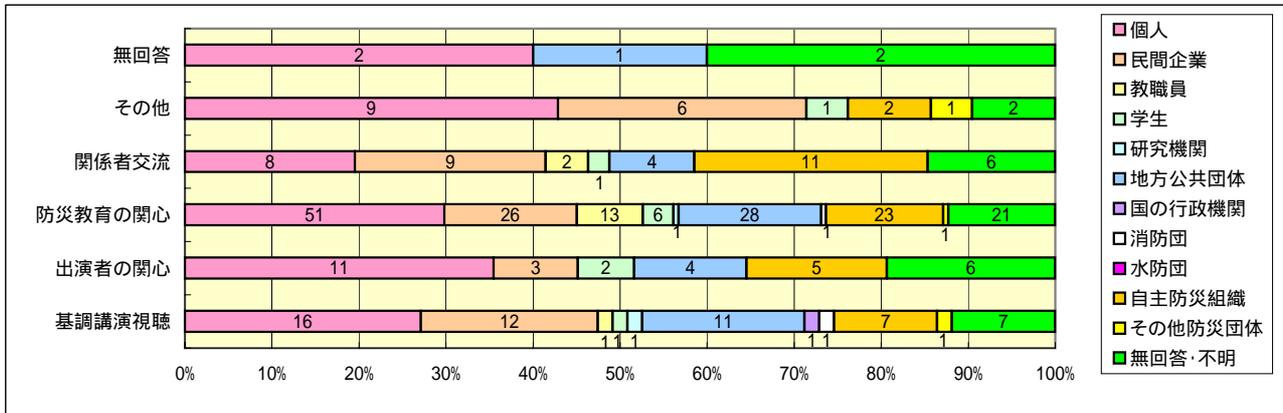
本日の防災フォーラムに参加した理由は、以下のどれですか。【複数選択可】

基調講演視聴	59
出演者の関心	31
防災教育の関心	171
関係者交流	41
その他	21
無回答・不明	5



フォーラム参加の理由では、「防災教育の関心」という回答が多かった。

【所属とのクロス集計】

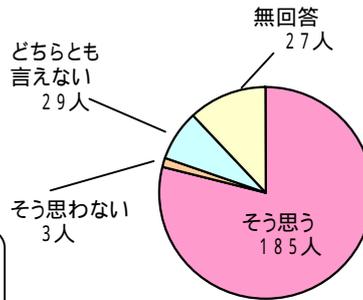


	基調講演視聴	出演者の関心	防災教育の関心	関係者交流	その他	無回答
個人	16	11	51	8	9	2
民間企業	12	3	26	9	6	0
教職員	1	0	13	2	0	0
学生	1	2	6	1	1	0
研究機関	1	0	1	0	0	0
地方公共団体	11	4	28	4	0	1
国の行政機関	1	0	0	0	0	0
消防団	1	0	1	0	0	0
水防団	0	0	0	0	0	0
自主防災組織	7	5	23	11	2	0
その他防災団体	1	0	1	0	1	0
無回答・不明	7	6	21	6	2	2

「基調講演視聴」「出演者の関心」「防災教育への関心」共に個人の割合が多かった。

- 1 本日のフォーラムの内容は参考になりましたか。

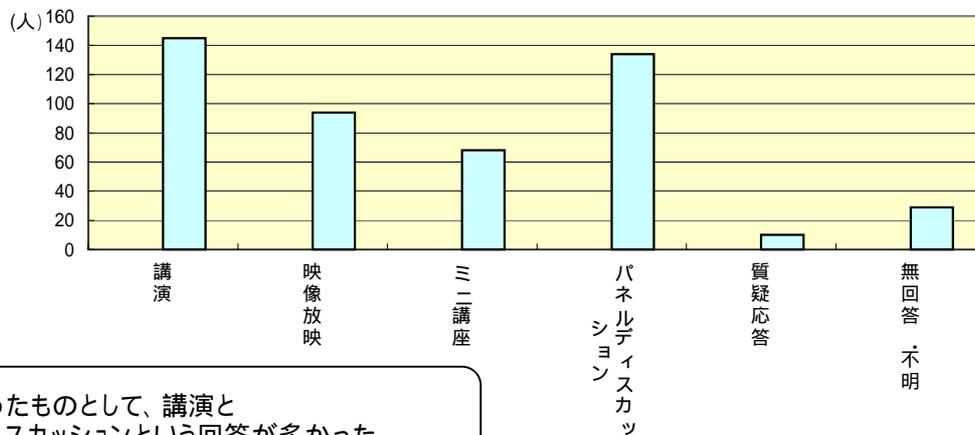
そう思う	184
そう思わない	3
どちらとも言えない	18
無回答・不明	28



「そう思う」(フォーラムの内容が参考になった)という回答が多かった。

- 2 本日のフォーラムの内容は、参考になったものはどれですか。【複数選択可】

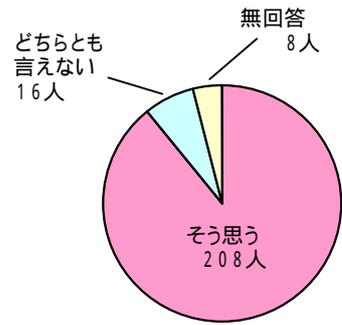
講演	145
映像放映	94
ミニ講座	68
パネルディスカッション	134
質疑応答	10
無回答・不明	29



参考になったものとして、講演とパネルディスカッションという回答が多かった。

今後とも、防災教育推進フォーラムの開催を必要と思われますか。

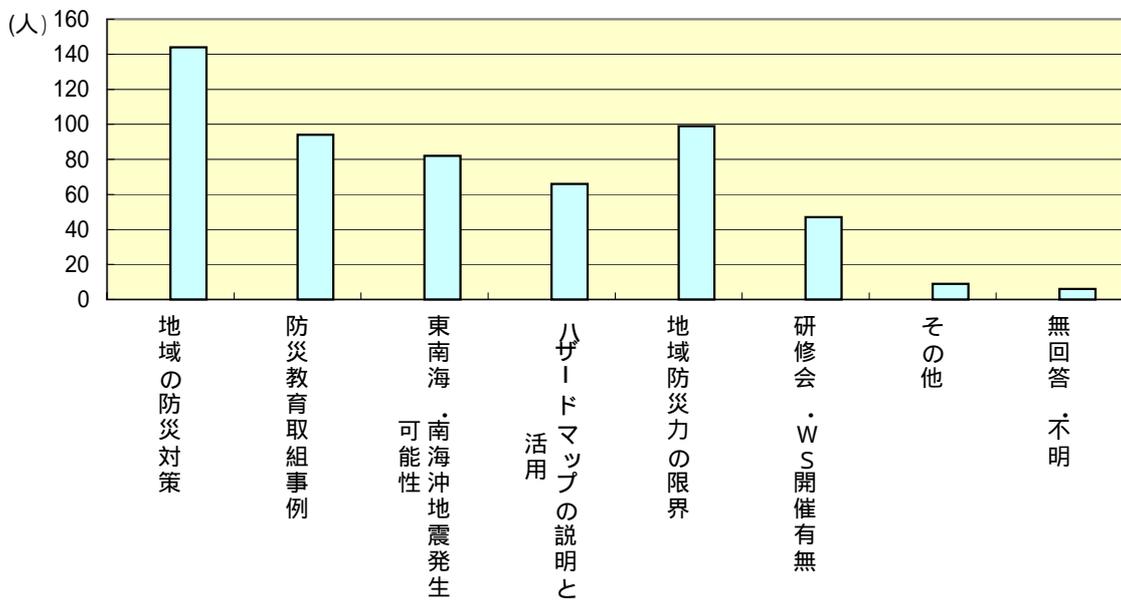
そう思う	208
そう思わない	0
どちらとも言えない	16
無回答・不明	9



「そう思う」の回答が多く、「そう思わない」という回答は0(ゼロ)であった。

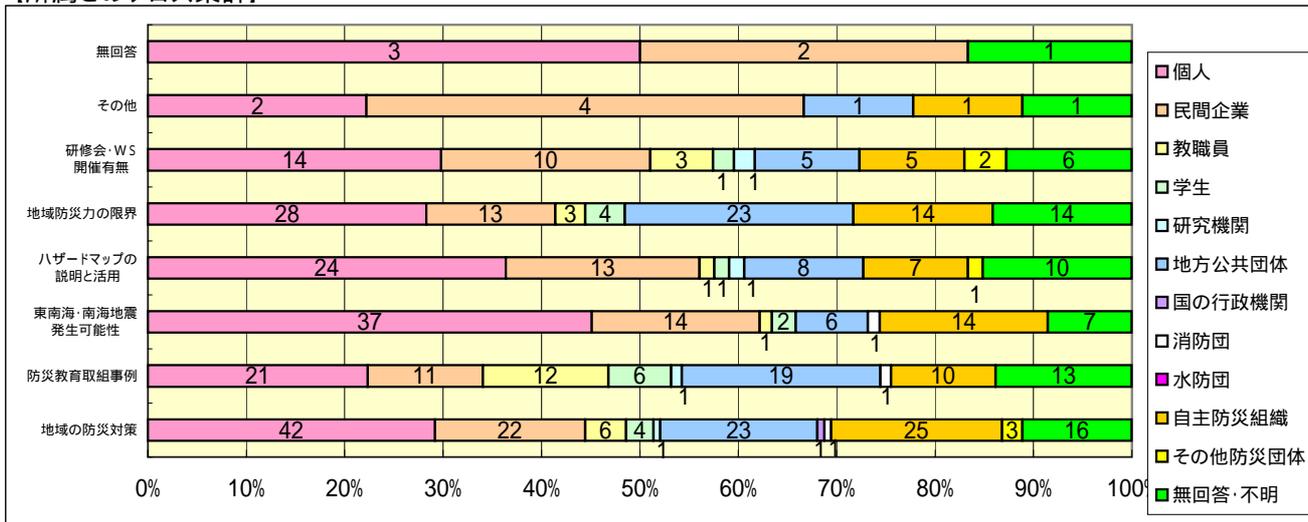
今後、防災教育フォーラムで聞きたい内容はありますか。【複数選択可】

地域の防災対策	144
防災教育取組事例	94
東南海・南海沖地震発生可能性	82
ハザードマップの説明と活用	66
地域防災力の限界	99
研修会・WS開催有無	47
その他	9
無回答・不明	6



一番多かったのは、「地域の防災対策」で、続いて「地域防災力の限界」と「防災教育取組事例」という回答が多かった。

【所属とのクロス集計】



	地域の防災対策	防災教育取組事例	東南海・南海地震発生可能性	ハザードマップの説明と活用	地域防災力の限界	研修会・WS開催有無	その他	無回答
個人	42	21	37	24	28	14	2	3
民間企業	22	11	14	13	13	10	4	2
教職員	6	12	1	1	3	3	0	0
学生	4	6	2	1	4	1	0	0
研究機関	1	1	0	1	0	1	0	0
地方公共団体	23	19	6	8	23	5	1	0
国の行政機関	1	0	0	0	0	0	0	0
消防団	1	1	1	0	0	0	0	0
水防団	0	0	0	0	0	0	0	0
自主防災組織	25	10	14	7	14	5	1	0
その他防災団体	3	0	0	1	0	2	0	0
無回答・不明	16	13	7	10	14	6	1	1

「地域の防災対策」「地域防災力の限界」「防災教育取組事例」共に個人の割合が多かった。

フォーラム全般に関する意見や質問、並びに現在防災教育に関する取組みを行っている方、或いはこれから取組みを考えておられる方は、その取組み内容などについて、ご自由にお書き下さい。

フォーラム全般についてのご意見・ご感想 (概要)

- ・防災に関することで必要と思う
- ・この様なフォーラムは、国民皆の関心事となる様、市町村レベル迄、公知とし、地域のフォーラム開催の周知が欲しい。周知を、緊急時のみならず、平時からの教育、減災活動の重厚さがより一層と痛感される思います。
- ・地域と学校で「防災力」を高めよう。で、「地域」についてももっと知りたかった。「学校」に重点が置かれたパネルディスカッションでしたね。
- ・メディアの取組みかたの疑問
- ・いろいろな分野で多くの人が努力されているのがよく分かった。ただその努力の成果がなかなか地域の住民の1人として思えてこない所がある。防災活動がますます拡がって行くことを期待すると共に自分自身と向上しなければと思った。
- ・行政としてできる限界、国(文部科学省)の考えの甘さ、若い力の活用についての重要性が実感できました。参考になりましたが、関西は京大が力をもっているようですが、地元の大阪市立大や神戸大はどのような研究をなされているのでしょうか？
- ・防災教育というと”避難訓練”というイメージが強い中で今回のフォーラムでは、防災教育は柔軟なものであるということを感じました。
- ・地震が起こった時、今日のフォーラムに来ている人のどれ位がまだ生存しているか疑問に感じる年代の人が大部分。これからの日本に非常に不安。やはり、若い世代の人が参加できる、またするようなフォーラムを企画すべき。
- ・今後の大地震対策への関心が高まり、資料よく読んで、防災の知識を高めていきたいと思った。
- ・2~3例、震災にあわれた方の具体的に声をまとめたもの地震後の生活方法、こまったこと生活に密着した内容もほしかった。防災教育は、各家庭からはじまるものだと思います。主婦が家を守る事が子へ伝わり、地域にも広がると思います。昔は地域から個人だったかもしれませんが、今の時代は、周囲との関係も浅いので個人が意識していく、必要があると思います。
- ・防災教育の重要性は解るが、若い人にどう伝達して行くのかが課題
- ・東南海南海地震についての知識(どのような地震でどのような被害が想定されて、どのように対応していけばよいか)を与えてくれるような講演なり話なりにもっと時間をとって説明がほしかった。
- ・いつ来るのかわからない地震をいつも忘れがちになる。身の回りの物を整理して常に備えあれば憂いなし状態にと前向きに取り組んでいきたい。
- ・時間が短い。もう少し余裕が欲しい。1時間は必要。
- ・若い年代層が少ない。企業の方からの参加を促す方法も必要と思う。(地域的關係で高齢者が)次になう人材なら30代~40代の参加も有って良いのではないか。
- ・沢山の人が集まって、関心の高さに驚きました。私自身も頑張ります。
- ・防災だけ地域訓練だけでなく、+ のある訓練の実施ができるというのは、非常に良い意見だと思う。
- ・とても勉強になりました。有難うございました。私は個人ですので、どの様に気持ちを持つべきか自分の心の持ち方がより、細かく、又、人まかせの人に伝えようと決められました。
- ・防災教育としては、コミュニティーでの具体的な活動例を紹介してもらえれば、コミュニティー活動が地域の活性化にもつながる事例として知りたい。地域のもり上がりがいざという時には必要であろう。
- ・小中学校の先生の話も聞きたかったです。林先生の話はわかりやすく、ためになりました。
- ・大学高校などで行われている行政や文科省の話は一般的すぎ、参考にならなかった。もっと具体的な事例を取り上げて欲しい。
- ・防災活動をされている生の声で意見交換が聞けて、若い力の活用(教育と出番の用意)が大切なことがわかった。
- ・新しい研究成果をフォーラム等を通じて国民に知らせ防災(すべての自然災害)に対する関心、行動力を高めるためたびたび開催する必要がある。
- ・防災・震災といっても他人事というのが関西地方の考えがまだ強いようと思います。若い力が大切であることを知りました。これから立ち向かう事が大切であると考えられるよい会となりました。

- ・林氏の幼少時の防災教育の必要性には共感する。
- ・本フォーラムは、宝くじ助成の地域防災スクールとリンクするしかないと思いますが、地域防災スクールという助成制度自体がややこしくて、申請できずにいます。地域防災力向上を目指す助成制度であるようならば、もっとわかりやすいものがよいと思います。こういったわかりやすい利用しやすい助成制度へ進めてほしいと思います。
- ・パワーポイントの内容を事前にコピーしてほしい。メモがとりにくい。
- ・短時間でしたが、貴重な時間であった。また開催を望みます。ありがとうございました。
- ・地域とマスメディアの活用
- ・テーマは広すぎると思う。
- ・大変わかりやすく参考になった。今後の活動に役立てたい。
- ・パネルディスカッションが意味がありました。(具体的な事例を通じておしえられました。大変良かったです。)今後の参考にして行きたい。少し欲をいえばもう少し地域実態を議論して欲しかった。
- ・基調講演に時間(長く)がもっとあれば良いと思う。
- ・フォーラムでいただいた資料が豊富で充実しており、今後防災教育を行うことがあれば、大きな助けになりそうである。
- ・今までテレビなどでしか見れなかったことを少しでも近くで防災の大切さを知ることができました。私は大学生ですがなかなか直接結びつかない学部でみんなと防災について語り合う場がありません。もっと中味のある学生でも実行しやすいことなどをテレビや地域、学校に働きかけるなどで取り組んでもらえたらと思います。
- ・普段防災の勉強をしていますが、今回のフォーラムで本当に新たな発見が多くありました。やはり、今若者の動いていく必要性の大きさを改めて知りました。年配の人から受け継ぐ役割をしていきたいです。
- ・パネルディスカッションのメンバーが平面的。立場・機関にバラエティ持たせて、事例を交えたらもっと有効的になったのでは。
- ・防災教育が専門ではないのですが、教育活動をおこなったりはしているのでとても参考になったと思います。
- ・林教授の講演でパネル(パワーポイント)の内容をメモしたかったが進行が早かったのでメモをとることができず、残念だった。
- ・「助け合うとなり近所」スローガンに。要望 ゲームソフトとして生命を救うソフト作り全国幼稚園小中学校へ配布し教育に使う。 幼稚園小学校は1/9はイベントデーに教育実習パネルつくり地域の人参加求める。(社会人は土曜に来校してもらう)
- ・このようなフォーラムを繰返すことにより一般府民に地震に備える対応を気づかせる、対応させる、行動させることにより、個人の取り組みを向上させるのではと考える。
- ・地域住民に対する防災の啓発や体験型研修を企画していただいたらと希望します。
- ・一人一人が防災について関心や意識を持つことが被害をいかに少なくする大切さを知りましたこれからは、このような人達がどんどん増えていくことが防災にとって何よりも大切なことであると思いました。家族地域での取り組みに生かしたい。
- ・防災教育に実際に取組んだ際の具体例とその良かった点、悪かった点。
- ・始めて参加し、たいへん勉強になりました。自主防災組織の一員としてこれからの活動に役立ちます。
- ・防災専門官の体験談が参考になった。
- ・能動的フォーラムの進化
- ・より具体化したグループ化した防災のグループをしりたい。
- ・若年層に対してどのような型で維持するか参考になりました。
- ・地域防災力の向上に若い力の活用、イベント時の啓発が参考になった。
- ・林先生が言われるようにこれからの若者が災害対応、復旧、復興を担っていかなければならない。小、中、高の教育でもとりあげることは重要と思う。
- ・防災又は防災教育に関して、自分は何も出来ていないことを痛感してよかった。ただ68歳の身体障害者の私に何が出来るのかを考えるとお寒い感じです。
- ・摂南大学、舞子高校での取り組みは具体例として参考になった。
- ・あらためて防災教育の必要性を痛感した私たちもともに学びともに参加していくことが防災につながっていくことだとわかった。

- ・天下のNHKホールにも拘わらず一部音楽が悪くきき苦しかった。
- ・体験者の参加がみられなかったのは残念。
- ・もう少し時間確保してほしい。テーマをしぼって司会がうまくまとめてくれました。
- ・今迄余り防災に関して考えておりませんでした。本日のフォーラムに参加させて頂き大変参考になりました。
- ・とくに、大阪府の地域への対応が遅れているのかと感じたが 学校etcへの対応(指導) 指導性
- ・今迄のデータによる説明であるが、これから起きる地震についての発表、説明がほしいと思いました。防災については色々考えられるが話を聞くとその瞬間はなにも出来なかったと聞いた。
- ・これからの若い人へどしどしこのような催しを増して啓発して下さい。よい企画です。
- ・大阪府が3つの課を組んでいると自己紹介があったが、行政が知識を知識を集約するだけでは実際の有時には役に立たないだろうという感想を持った。民間、学校、地域様々なところで取組みをされているが、これらの団体と連携を密にしておかなければ、リーダーシップとれないと考える。
- ・「大きな壁」の1つに、行政の縦割がある防災教育は学校で行うものと定義するなら今回のパネリスト人選でよいが、地域、家庭も防災教育の場であることをふまえれば、それぞれから人選をした方が説得力が出てくる。
- ・このようなフォーラムを例えばCDなどで公開してほしい。
- ・全体に良かった。只、林先生の講演は少し時間が少なく、開演からすぐに入ってもらいたかった。残念ながら气象台の方の話はいらなかった。
- ・質問票は参加する前にくばってほしい。当日より考える時間がほしかった。
- ・初回については良かったです。これからの教育指針が見えてきますね。
- ・タイムリーなフォーラムでよかったです。市民(国民)全体が気をつけるべきでしょうね。としてすべきこととして、特に関心をもっています。
- ・おもしろい話、語り口でよかったです。時間が少なく感じてしまうほどだった。
- ・これから取組。自主防災の参考になった。
- ・いろいろ参考になる話を聞いた。今後もこのような機会を作っていただけるとありがたい。
- ・地震以外も水害についても取り上げてほしい。
- ・パネルディスカッションはたいへん有意義な話がありました。
- ・小中高での教育の一部として必須にすべしと思う。
- ・若い人・力と協力しながら地域防災に取り組みたいと思います。
- ・声が小さい。もう少しボリュームを上げたら如何。画面も小さい。12面もあれば各々を拡大して見せる要あり。
- ・災害の恐怖と、防災の良い機械に、感謝しております。今後NHKTVでも期待しております。(資料もありがとうございました)

現在、あなたが取り組んでおられる防災教育の内容 (概要)

- ・子供、大人を問わず、地震直後にとるべき行動2次災害の防止、日頃の備え。
- ・ハザードマップ
- ・日本防災士会奈良県に参加、組織活動の実施、広報誌の発刊も含め、平時からの地域住民への減災への取り組み教育、研修セミナーを啓蒙啓発活動と共に、緊急時の連絡網、研修セミナー等での自助、共助活動の意味等。
- ・地域の活性化と防災対応へのベクトルの相違
- ・市、町会(地域)での防災訓練への参加
- ・2年前から、自治会会長として、自主防災会を立ち上げ(会長)各種資機材の備蓄に取り組んで来ました。又、毎月自主防災会役員会を実施してきました。新年度からは部会訓練に絞りたいと思っています。
- ・地域でのDig訓練など自分たちは自分たちでという自助の大切さを研修、訓練を通して教育しております。
- ・防災図上訓練を指導している。
- ・1. 防災用品を準備している 2. 緊急時の避難経路を確認している
- ・防災教育支援団体で途上国に対して大学生が出来る支援をしています。
- ・地域の自主防災組織の結成
- ・自治会単位の自主防災会であるが、地域全体でどう取り組んでいけるかが課題
- ・震災時における消防としての初動体制のあり方
- ・青少年層への防災教育の推進。地域での防災訓練。
- ・日本防災士機構に属し、防災活動指導を行っている。
- ・小学校4, 5, 6年生に対して防災教育セミナー、中学生が地区での主役、救助法の研修、親と子の防災セミナー、応急手当の方法など。
- ・地域で1自治会のみ自主防災組織を作っている。
- ・自主防会議の開催(月1回)防災知識の発行(月1回)
- ・シュミレーションで実際の安全な逃げ道をどう知るか。地域の安全な所、危険な所のチェックをする地域活動の指導(特に社会的弱者の救助などをどうするか?)
- ・まず、自分自身は自分が守るそして地域の人と手を組む。
- ・自治会が主となって毎年2回訓練している。
- ・教育と言えるか疑問であるが、昨年11月に自主防災会で防災の集いとしてバケツリレーや消火器訓練等を小学校で高石消防署と協力のうえ、実施した。
- ・地域をよく知る事。・災害時の準備の重要性。
- ・一般広報活動
- ・防火講演。避難訓練。
- ・義務教育段階(小中学校)での防災教育の内容。高等学校、大学での防災教育殆ど行われていない。(啓発も極めて不十分)
- ・災害発生時における地域住民(自治会等)の活動指導。防災資機材の使用方法。
- ・市内在住で防災関係の仕事をしています。地域町会での防災教育を考えています。
- ・小さなことから。出る杭は打たれますので。
- ・地域の自主防災組織の推進。
- ・小学生4~6年生とその保護者を対象とした、親と子の防災セミナーを実施。
- ・社内で被災時の安否確認方法について検討しているが、ベストの方法はまだ検証できていません。
- ・BCP/BCMの策定の一つとして被災直後の対応力UP・マニュアル整備・固定インフラ情報収集
- ・地域防災に取り組む自主防災組織への支援等を行う紀の川市防災リーダ会にに所属しています。
- 自主防災(各地区)組織は、各所にて知識力等に温度差が極めて大きい。これを是正していくのが大変のため日々努力しています。
- ・地域防災力と要配慮者対策について、自主防災会で地域防災力を高め具体的、効果的な方策を考えている。又、要配慮者(名簿)をつかむのに苦労している。
- ・社内マニュアル作り
- ・環境防災での学び。日常の防災行事の参加。

- ・本日のパネルディスカッションから得られるものを期待して参加したのですがテーマが学生対象の教育に絞られていたのがっかりした。地域は確実に高齢社会になっている。高齢者ばかりの町内でどうして意識を高めていくのか。次の機会に期待したい。
- ・小学生を対象にした防災教育の活動。地震だけでなく、洪水か土砂災害についても教えています。
- ・非常袋、電気ガスの止める掲示(運動靴他)防火時脱出ユニフォームか衣類。
- ・大阪市内の各町会単位での防災について、少子高齢化にともない防災に対する備が思うように出来ないのが現状である。
- ・自主防災、家具転倒防止、火災警報器取付推進。
- ・地域または事務所等での防災に関するもの。
- ・市の危機管理の出前講座により、組織と連帯意識と連携(意識の向上と訓練)
- ・被災時の防災活動。
- ・高槻市の危機管理の防災教育を自主防災組織の一員として受けたばかりでこれから具体的に何をすべきかを検討中。
- ・防災士ですが、試験をとっただけであとの活動がない。他の防災団体と学ぶ機会がほしい。
- ・地震及び津波の指導(防災センターで)
- ・イベントで啓発している。
- ・1. 阪神大震災の教訓、2. 防災訓練に参加、3. 防災に役にたつ機材の配地
- ・大阪府高石市東羽衣3-9-14(ホープコミュニティセンター)で子供たちといっしょに防災教育(私たちにできること)をテーマに(自助)防ぐ(減災)自分の身を守ることを中心に活動している。
- ・人材ボランティア
- ・地震等(自然現象)による原子力災害に対応するための調査・その他。
- ・地域自助防災組織の結成と地域防災力の向上、その実現の根底にある地域での人間関係のを模索中。
- ・自治会の時に防災会を設け、1. 月1回説明会を、2. 自治行政と連絡・上記の日時に。
- 3. 組織的・構成メンバーは固定
- ・学校現場での防災教育
- ・大学生のボランティアにDIG訓練etc。
- ・自治防災会・・・[自助]わが家の防災対策のすすめ・マニュアルを作成し全戸配布
- [共助]活動マニュアル作成済・災害弱者支援マニュアル作成済
- 今後の課題・・・[自助]配布だけでは不十分との認識であり
- [共助]地域・学校etcとの連携・防災会設置なるも中味なし(これから)これからは啓蒙活動と訓練の実施の評価と次への計画に反映。
- ・地域防災団体(自治会)の者です。個々の人達の防災について奥く考える事なく他人まかせの人が多く、その人達にいかんを感じを持たせるか。
- ・3年になるが記上と会議で過ぎて来たが、あまり感心が薄いと思います。防災グッズも少しづつであるが買入しています。
- ・只今より立ち上げるところing中。
- ・地域の自主防災組織のレベルアップ(知識・実践を教育)
- ・県の防災部局へ派遣されている教員であり、学校現場にも積極的に出向いて教育の場を広げている。まずは啓発。レベルにより図上訓練等。
- ・地域、小、中、高、一般企業の教育の向上啓発
- ・現在防災組織を立ち上げで半年ですが市の安心安全室より出前講座として防災教育を受けていますがなかなか人ごとの様で集まりにくい。市の説明会は1回30人~40人も集まっているので平均よりずっと良いと励ましてくれるが・・・。
- ・ライフラインの不通時の生き方
- ・残念ながらリタイヤしているためありません。体験したことを語りつぐことぐらいでしょうか。
- ・高槻市の指導で1年間教育させていただき自治会員に対して啓蒙活動を行っていております。
- ・1. 地域構成員に対する防災意識の徹底・参画意識のUP 2. 地域の特質つまり、低湿地と近くに天井川あることで特に水害に対する地域防衛を強く意識する。
- ・自分自身が勉強中。
- ・手作り防災紙しばいで幼稚園、小学校などで紹介。非常食を作り、福祉センターなどで紹介。

- ・老人会でDVDを見せる。内容はTV放送のダビング等。
- ・連合自治会長を中心に市役所、消防関係による地域防災に自主訓練を行いました。
約100名参加で地域のPTA、母子会、体振、各自治会長等参加。
- ・0～5才児、乳幼児の子どもたちがいる保育現場で自分自身の身を守ることを伝える。

これからの防災教育への取組みを考えておられる方の内容 (概要)

- ・水防災
- ・老人対策
- ・自助努力は当然であるが、共助に近所同志のコミュニケーションをどう広げて行くかに手法があれば今回参加しました。(町会組織に入らない人(家族)も多くなってきている
全ての人が付き合いがないわけではないが)住民に回覧で呼びかけをしているが、なかなか進まない。(特に若い世代)
- ・大学、高校等の教育機関との連携
- ・災害弱者の避難誘導に高校生、中学生との協力をお願いしたいが学校は協力して頂けますか？
舞子高校のように全校の広められるか。
- ・災害が起こった時どのように行動を教える。
- ・子供達に自分達が主体となって活動
- ・地域での防災訓練への参加
- ・年寄りをつれての防災訓練
- ・防災対策、教育についての重要性はよくわかるが、これから来る大地震にどう取り組んで行けばよいか、その具体的なものがみえない。もっとよく地震や防災についての知識を深めるようにして行きたいと考えております。
- ・地域自治会に対する防災指導活動を考えています。
- ・今後、21年度末を目標に、自治会毎に自主防災組織の編成に向けて取り組んでいきます。
- ・避難所運営のケーススタディ
- ・大型の家財道具の整理
- ・自分の地域での防災訓練の取り組み。 地域で新しい転入者とのマッチングの難しさ(堺市鳳地域)
- ・地域住民ひとりひとりの防災意識を高める。
- ・家族ヘイザという時の行動を教えたい。
- ・大規模自然災害における死傷者の年齢をみると、動作の俊敏性のある若者が予想以上に多い。
高・大学生に対する防災教育(ボランティア活動も含む)を充実させる必要を感じずる。
- ・地域での教育は、高齢者中心になっています。これからは若年教育が必要であると感じます。
- ・防災意識の平均化(平浄化)？
- ・マスメディアの活用
- ・フォーラムで学んだ内容を参考にして、地域やサークルを通じて広めていきたい。
- ・自主防災組織のボトムUPが必要不可欠と考えていますので災害でなにか出来るかを
確認検定を行って行きたい。また、防災への感心を深めるためにあらゆる機会を取まえて
防災での活動の重要性をといて行きたい。
- ・地域住民防災教育・自主防災組織作りは永遠の課題であること理解。仕掛人の役をやります。
教育に終わりなし。
- ・大学への進路も含めて防災機関に携わりたいと思っています。これからも必要とされている
防災教育を行うことのできる一員になればと考えています。
- ・今後は一般の人たちを対象に洪水や土砂災害に対する防災講座も考えています。
- ・街毎、小学校区每班毎作り行動表配布。
- ・減災の手引きを実行するため、小学生、中学生、高校生、大学生、町内、老人会等巾
広いピーアールが必要と考えます。
- ・学校での防災教育の取組。
- ・訓練やイベントするにあたり具体的にこんな事を行ってみるといったヒントを何か得られるかな
と思って来させていただいたので、次回があれば具体的にしてみたことについて伺いたい。
- ・意識の高揚と訓練(体験情報)
- ・地域(500世帯)の可燃、生ゴミを10軒単位くらいの細分化をし、生ゴミは水分を極力少なくして、
ポリ容器(中にポリ袋をセット)に投入して、可燃ゴミはネットなどのその方式を
進める事に依り。

- ・防災教育への取組みを教えてください。
 - ・地域防災(自助共助)をもっと考えていきたいと思います。
 - ・地域防災力の向上について。
 - ・家庭教育(子孫妻)地域(マンションの自治会=420世帯)
 - ・子供たちが能動的に防災教育に参加することで家族の防災意識の向上はかかっていきたい。
 - ・防災の基礎となる。我々の生活を支える社会基盤(水のエネルギー・電気・ガス他)通信etcの信頼性と発生した事象に対する対応力の問題。(教育における現象力の不足etc)
 - ・被害体験者の話を聞くことで、防災意識啓発 公共機関との連携、他地域との交流 地域住民の「ふれあい」社会の創出。
 - ・ボーイスカウトの活動に組入れたらどうですか。いいリーダーが育つのではと思います。
 - ・上記の通り取締と実施の予定
 - ・必要と教える一定の仕組み(活動の)ができたので、後は実践力にポイントをおく考えです。人、組織、資金が実践を阻む壁かと。(とくに人・組織の問題が大きいと考える)意識認識を如何に高めるかが最大の課題と考える。
 - ・見学も神戸と淡路の二ヶ所へ行きましたがもっと防災関係のある所へ見学してはどうかと思います。
 - ・今、勉強中です。
 - ・具体的に実施する場合教材のオープン化、一般公開をして欲しい。
 - ・私高校・中学・小学の防災教育への参加を推進させる
 - ・地域防災組織として幅広い訓練をしていきたい。
 - ・いざという時、個人はどうすべきかも考えてみてください。
- 方策、各自治体の方でもそれに基づき、確たるものを作っていくべきですね。
- ・今日話を聞いて、出番のプロデュースをすることやっこうかと思っている。
 - ・神戸市及び尾道市とかが進めておられる活動等をされているカタログ及び雑誌等を参考にしながら啓蒙活動を行っていきます。
 - ・理論より実践教育を行う。
 - ・被害状況を見せて、各々の感じられたこと、各個人の過去の経験を話すだけでも有意義だろう。

その他、防災教育に関するご質問やご意見があれば自由にお書きください (概要)

- ・もう少し取り組み事例を示して欲しい。
- ・国、市町村との連携・周知が未だ完全とはいえず、公助面での連携が急務の様に思われます。(奈良県での開催も望みます)特に市町村での防災活動への取り組み支援等教育面含め。
- ・住んでいる地域での防災教育(学校だけではない)の現状を常に知る機会、参加する機会をもっと増やして、関心のない人を減らさなければならないと感じる。
- ・行政側とのギャップが大きくあまりにも多くの不安をかかえているのではないか。
- ・災害時要援護者となる人の開示を行政はできないのか(防災関係者や民生委員に対して)
- ・地域活動に対する自治体の支援を。
- ・国、府の市町村への協力関係が全く無いのが現状のため、市町村、自立防災組織の現状をもっと理解してほしいと思う。
- ・防災情報をメールなどでほしい。
- ・本日の様なフォーラムに参加、又勉強会等に今後共出席し、方向、方針を出したい。ゆっくりと考えます。
- ・地震後の対応(どのような行動を取るべきか、何に協力し、効率的に役に立てるか)を具体的に知りたい。皆が一丸となって協力し、すべきことが分かっているならば、復旧は速いと思うので。
- ・いろんな地域でこのようなフォーラムを開催し、防災へのきっかけづくりをしてほしい。
- ・学校が中心に、地域団体もまじえ、取り組むことが重要。その点で取り組み方が低く課題。義務教育に防災のカリキュラムを必須として編成すればよいのでは。
- ・今後も今回の様な防災等のフォーラム講演を推進していただきたいと思います。
- ・地域には、津波など(特に大阪市は)危険があると思いますが美観的な事に重視して、

津波対策をとられてない所があります。例えば、新しくできたABC放送の川の横ですが、川の水が津波により、あふれてくると思います。防ぎようがないのですが働きをかけようのない事には、どう防げばよいのだろうか？大阪市は考えているのか？

・近畿大阪府、県、市における防災活動で指導会の現状資料が必要と思う。連携指導活動の強化へ。

・昼夜を問わず常に地域にいる小学生、中学生に対する防災教育は非常の重要である。

・為になる話もあり全体的に良しとしますが、ただ現実の問題(無関心、リーダーがいない、集まらない等々)があります。したがって「私の地域はこの様にした。」の体験者発表もとりにいれて欲しかったです。

・正常化のへん見、風化、中央防災会議、大阪府、大阪市の出す被害規定が違いすぎる。

・こうした報道をNHKで一般向けに放送して欲しい。林先生の基調講演を身近な地域バージョンに取り入れたら良いが(地震に対する危機意識が薄い)大阪府 各市町村単位に防災意識の認知度をどう伝えるか？V.活動は、保護者の認めが必要であるが、点数かせぎで来るV.もいて、受け入れ先々のトラブルも有る。受け入れ先の条件も関与があるので一概に全てOKとは言えない。内容も聞き入れも大切である。(V.の一人よがりもある)

・現在、地域の自主防災を立ち上げていますが、子供達の参加は考えていませんでした。今後の活動の中に考えて行きたいと思います。

・防災+-を取り上げていたが、防災士の位置づけが不明確であること、取得に6万円かかるが、対価に見合うものものか検証がなく、一種の資格商法との意見があることに留意して欲しい。防災士資格が民間資格でしかないことに問題がある。(漢字検定と同じレベルである)国等での防災に関する資格要件の認定があれば良いと思う。

・他力本願ではなく、まず第1本目は自力本願そして、人々と結束して行く事が必要だとつくづく思いました。勉強させて頂き有難うございました。

・有難うございました。

・子供達(あるいはその両親)にいかに防災について関心を持ってもらうか？

・震災から14年が過ぎ、危機感がうすれ風化されているように思います。やはり痛い思いをしなればダメなのではないでしょうか？各市での規模の小さな講演会も希望します。

・大阪府岸和田市には、ダンジリ祭りを成人にする住民組織がある。各ダンジリを動かすリーダーは組織、指揮、命令に優れている。このダンジリ祭りの組織は災害時マニュアルをあらかじめ作っておけば非常に有効と考える。

・現在、大阪府庁の移転問題の話があります。大地震が起これば海岸地域の被害はばく大なものとなるはず。総合的に判断すれば良否がつけにくいのではと思うのですがいかがか？と私は思います。空港も海の上にある。はたしてこれも使えるのか？

・いろいろなからみがあり、困難です。

・学校現場で、地域の方や、地域の子供たちとともに防災教育(啓発を実施したいがなかなか学校側の開放が得られないようです。避難所にもなる学校をできるだけ開放できるように考えてほしい)

・想定した防災訓練が実際の災害とは温度差があり、なかなか機能しない。想定が重要だ考えてほしい)

・マスメディアを通じて防災への重要性を年に4回以上何らかの形で放映して欲しい(災害への取り組みの意識向上のため)口込みでは、強さ(インパクト)が伝わらないからです。

・日本人は忘れ易い性格を有する。「天災は忘れた頃にやってくる」繰り返し、繰り返しメッセージを発信しつづける必要がある。

・建物の防災力を上げて防災教育を高める。

・行政の積極的取り組みが大切だ。立割行政の悪さが目に余る。

・現在組織化されて活動中の地域防災団の具体例を画面で見たい(成功例の紹介)

・いつ起こるかかわからないものを教えることは難しい。子供たちが楽しく取り組めるような事例を紹介して欲しい。

・貴重な内容で良かった。今回たまたまNHKの案内を見たために参加することができたが、普段は仕事の時間帯のため。また開催されることがあればDMをいただければありがたいです。

・教育と同時に街・班単位の実践教育実施。非常時知識行動表作成配布する。

・住民末端の防災についてもっと考えるべきである。・高齢者、障害者の取り組考え方について。

・磯城郡田原本では教育委員会が取組もうとしない。どうしたら実施できるか。

・子供、学生、自治会、町会等に行った指導などで具体的にどんなことを行い、そのどのところが良かった又は悪かった等の事例についてみたいです。

・私の居住地域は65歳以上の世帯が30%を越えています。防災力に人的、体力的に限界があります。こんな環境での教育はどうするかが課題です。(私は自主防災組織の一員です。)

・震災の予兆を知る手がかりはあるか？

・清潔でカラス、ネコの被害を防ぐより、高齢者(独居老人)、障害者を思いやり、防災に関しても向こう三軒、両隣りを形から入って住民同志がお互いを良く知る事で、何事にも機能しやすく高齢者が増えている時代に対応が必要。

・身近なことで出来ることを考えみます。

・地域と学校を結ぶコーディネーターの育成にどう取り組んでいけばいいのか今後の検討課題。

・災害ボランティア等の被害(阪神大震災でのアスベスト被害等)に対する保障など(公務員は保障されるか。ボランティアetcの市民はなし)

・避難所として重要な学校と地域との交流を図って欲しい 学校の開放(文科省のお役目?) 能動的な働きかけ。

・地域のイベントで子供が集まる時防災について話し合いたい。

・地域の小中学生向けの研修訓練考える材(ペーパーレベル)は作成済みであるが白板、プロジェクターを含む器材の整備が必要であるが。本日の内容レベルの次のステップのこうした機会を期待したい。

・基調講演は良かったと思います。(できれば掲示されたパネルが欲しかった) 地域での展開上

・実際に災害が起こった場合にはどうすれば良いか分かりません。自分自身は分かっているても他人についても他人についてはどうかと思います。

・方向へ変化させる = 防災力を向上させる・人間形成を作る。防災を向上させるにはどのように向上したらよいか。(まなぶ)(ならう)(ためす)

・防災訓練での人を集めること、本当に大変だ。

・防災教育としての特化も一つであるが、「生きていく力」としての教育として防災も含めた総合教育として「生命、生きる」として、考えていくべきでしょう。

・実際、おこった時はどうなっているかを知りたいです。公が動くのは遅れると思います。

・教育で共助への意識を高める必要ができてと思います。

・自治会員等に配布するのに減災のてびきのようなものが欲しいです。

・人と人のつながりが大事だと思います。

・もっとTVなどでも啓発する。大地震と大雨といった複合災害は確立的には如何？ 堤防がゆるむことはないのか？

・一家庭人として自分なりに、隣近所(地域)との日常の友好関係を築いていきたいと思っています。

・今回、どうしても用事がありパネルディスカッションからしか聞けず残念で残念で・・・。

地震にそなえる防災教育がききたかったです。何度もしていくことで意識しないといけないという気持ちを高めることが必要だと思います。ぜひまたして下さい。保育所は乳幼児と女性がいる所です。災害時には一番リスクの高い現場です。乳幼児多数に大人は少数です。どうか、文部科学省も幼稚園(3~5才)の現場だけでなく厚生労働省とともに(0~5才)のおなじ子どもたちのことも考えてほしいと願います。子どもたちの現場が2分(2つに分かれている。国もどうかしてほしい)していることが不思議です。(内容がそれですみません)保育現場での防災、ほうんとうにみんなで防災、ほうんとう考えていきたい内容です。